
数值化魔戦争

暁晶

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
数値化魔戦争

【Nコード】
N1096Z

【作者名】
暁晶

【あらすじ】
西暦2061年、戦争になった世界で、勇気ある人間たちが繰り広げる魔法や数字や人間関係の物語。

第一章（前書き）

まだまだ初心者ですがよろしく願いします。

第一章

数値化魔戦争

暁晶

第一章

魔法なるものが開発されてからはや50年になる西暦2061年。
この世は今戦争真つただ中の世界だ。
これはそんな世界で必死に生きた英雄達の物語である。

西暦2047年

「おとうさん、なにしてるの？」

まだ幼い少年が自分の父であろうう人に話しかける。

「魔法を作ってるんだよ」

まほつ？と少年は首を傾げる。

「いいかい、魔法と言うのはとても危ないものだ。でも私が今作っているものは傷を癒す魔法だよ」

「これが完成すれば今苦しんでいる人たちを助けてあげられるはずなんだ。生涯これといって何もできなかった父さんだけど、やっと人のために出来ることを見つけたんだよ」

「ふーん」

「お前も人のためになるようなことをするんだぞ、ロレン」

ロレンは無邪気な笑顔で

「うん！わかった」

と返事をし、小さい背中をこちらに向けて今日もどこかへ遊びに行く。最近はや遅くまで帰ってこないこ

とが多く少し心配なのだが、多分友達と遊んでいるのだろう。

おっと、私は自分の仕事をしなければ。

「おっ、今日も来たのかぁロレン」

「うん、きょうもおもしろいものみせてくれるんでしょう？」

「これ使うのは危ないって言ってんだろぉ、いつも。」

「えー、みせてくれないの？」

ロレンは顔をわざとらしく歪めるが、相手はロレンの気持ちを分かってくれたらしく、やれやれと言う感

じで何やら言葉を唱え始める。そして、

「ふうふう、どうだ」

「わあああ、すごいー！」

少年がおどいたのも無理はないだろう。彼の手の中で、

小さな火が燃えていたのだ。

・
・
・
・
・
・
・
・

西暦2061年 12月23日 司令空挺 作戦室

「第三魔法部隊！西の陣営が押されている！至急援護に迎え！」

「おい！聞こえてないのかルーク中尉、貴様だ！」

場を凍らせるような怒号で呼ばれたルークと言う軍人が、慌てて振り返る。

「すみません！直ちに行つてまいります！」

そして数人に若干白い目で見られながらルーク中尉は作戦室を飛び出る。

「全く困ったもんだな中尉は。階級と腕はそこそこあるのにどうも気が抜けているみたいだな」

「そうですねバーノン大佐。今がどれほど重要な時期か分かってるのでしょいか彼は。失敗は許されませんからね」

「まあそう緊張するな少佐」

大佐が優しく話しかけてくれるが、表情が真剣そのものだったわけで、さらに緊張してしまう。

「では大佐、私は官邸に今回の戦闘の概要を知らせてまいりますので」

「よし分かった、気をつけろよ」

そして私は大佐に敬礼し、作戦室を後にした。

西暦2061年 12月23日 司令空挺前

「では私は官邸に報告に行くので、この司令は君に任せるとぞ、
「レンス少尉」

「分かりました。全力を尽くします!」

「よしいい返事だ。ん?あそこにいるのは誰だ?」

「ああ、あれはルーク中尉ですよ少佐。今から西の陣営の援護に行くんじゃないでしょうかね」

「あいつまだ出発してなかったのか・・・」

「では私はこれで」

何やら殺気を感じたのか、ローレンス中尉はそそくさと作戦室がある空挺に戻っていく。

「おいルーク中尉!」

「はっ・・・はい!なんででしょうか!?!」

「お前出発が遅すぎるだろう・・・何か不具合でも?」

「い・・・いえ、それが西陣営の敵軍が予想以上に強いという報告を受けて、兵装を追加積載していたのですが・・・」

「なるほど、そういうことか。それでなぜそんなに押されているのだ?我が軍のほうが兵装も魔法も優勢なはずではないか?」

「はい、ですが相手の陣営から我が軍のS-02A防御システムが

一撃で破損するほどの魔法が飛んできまして・・・」
S・O2Aとは 即席で防御シールドを作り出す、使い捨て魔法
兵装の一つ。

「それほどまでに強い魔法か・・・この戦争も段々進化していくの
だな・・・」

ところで中尉、今から空挺を出すのか？」

「はい、MO-B1小型空挺ですが」

「すまんが私も一緒に乗せては行ってくれぬか？急ぎのようです
今すぐ官邸に向かわねばならん」

「え・・・ええ、よろしいですが」

「なに、多少雑な運転でも気にせんよ、私も元戦闘兵だからな」

9

西暦2061年 12月23日 戦闘空域

「少佐、あと20分ほどで官邸に到着しますよ」

「うむ。しかし、この空挺はいい性能だな。早い割にGをほとんど
感じない」

「そうですね、我が軍の技術開発部にはまったく驚かせられますよ」

「我が軍の誇りだな技術開発部は。最近はまだ新しい兵装を開発し
ているとか聞いたな」

「詳しくは聞いてませんが全く新しいシステムだとか・・・あ、軍の空挺基地が見えてきました」

縦横15kmという超広大な敷地の中に、我が軍、もといラリウス軍空挺基地がある。

数千にも及ぶ戦闘空挺、その中でも際立って大きな空挺、それが司令空挺である。

「あ、ラリウス軍が今演習してるみたいなので少し遠回りしますね」

「演習？今日はほとんどが戦争に出ていてそんな余裕ないはずだが・

・・・」

「えっ・・・まさか！」

双眼鏡で見た数機の空挺は、間違いなく敵国のものだった。そしてそれはまっすぐこちらの空挺に迫ってくる。

「少佐！敵国の空挺です！」

「やはり・・・しかしどうするか、単機で勝てる相手ではない・・・」

「少佐！本部に救援を要求・・・あっ！味方の空挺です！基地から援護に来てくれたようです」

「中尉！ここは味方に任せて一旦基地へ着陸だ！」

「りよ、了解！」

そして機体は急降下し、基地の滑走路へと降り立つのであった。そして空を見上げると、激しい空中戦が繰り広げられていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1096z/>

数値化魔戦争

2011年12月4日01時49分発行